

東日本大震災被災児童等調査について

県では、東日本大震災当時子どもだった方々を対象に、震災当時感じていたことや、成長した現在の心の状況などについて、インタビューや座談会を通じてお話いただきました。そこで得られた「声」を報告書にまとめホームページに掲載しましたのでぜひご覧ください。また、当日のインタビュー動画も掲載しておりますので併せてご視聴ください。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kodomo/311hisaijidoutyousa.html>

調査期間：令和7年11月2日から令和7年12月20日まで
調査対象：震災当時県内沿岸市町在住で、児童生徒等であった方々



- 目次 -	
I. 調査概要	1
調査の目的	1
調査対象及び調査方法	1
調査の状況	2
II. 対象者の属性・被災等の経験状況	3
1. 対象者の属性	3
1-1 東日本大震災当時の居住市町と年代	3
1-2 被災経験等の状況	3
III. 調査結果	6
1. 調査結果の総括	6
1-1 当時の状況・心について 『あの日、子どもたちはどう感じていたのか』	6
1-2 支援・対応についての記憶 『そのとき、支援はここらにどうあったか』	10
1-3 震災体験の記憶と継承の意識 『記憶を言葉にして、未来に届ける』	15
2. 調査結果の経緯（インタビュー項目毎のまとめ）	19
2-1 1番怖かったこと、困ったこと	19
2-2 周囲（家族・先生・友人など）の対応でうれしかったこと、困ったこと	21
2-3 学校生活に戻ったときに感じたこと	23
2-4 支援についてどう思ったか（印象的だった支援と思い）	25
2-5 子どもとしての立場で、理解されなかったこと、伝えられなかったこと	27
2-6 大人になって振り返り、必死だと思った支援・言葉・対応	29
2-7 人生の転機としての震災（通学・生活・人間関係等への影響）	32
2-8 震災体験をどう受け止め、どう消化・継承してきたか、もしくは癒しかったか	36
2-9 今の自分にとって震災とは何か？	36
2-10 未来へ残したいメッセージ	38



東日本大震災被災児童等調査インタビュー①

詳しくは
こちら

